

世界戦後の地名考 (五)

瀧 川 規 一

アデイリア (Adalia)。土其古の海港。アデイリア灣に面し小亞細亞の南岸に於ける出口。スミルナ (Smyrna) の東南二百哩許の位置にある輸出品は木材・穀物・馬匹等。港としては碇舶に不便なるが爲めに近年商業的價值を失つた。この海港はパーガム (Pergamum) 王アタラス (Attalus) 二世 (紀元前二一〇—一三八年) の創設に係りリヴアント (Levant) と總稱された地中海東岸の諸國即ち小亞細亞、シリア、バレスタイン、及び埃及の中世史に於てはアデイリア (Adalia) 又はアタリア (Attalia) として知られ、十字軍の軍人等にはサタリア (Satalia) として知られてゐる。人口約二萬八千、そのうち希臘人九千餘含まれて居る。

アダメロ (Adamello)。伊太利の山。ロムバ

ード・アルプス (Lombard Alps) と云はれるアルプス山脈中にあり、高さ一一、六六一呎。西方のヴァル・カモニカ (Val Camonica) 谷と東方のエチユタール (Etschthal) 又はアヂゼ (Adige) 谷との間にある一大氷河地域にあつて主要な高峰である。最初の登山者は一八六四年に登つたジュリアス・ペーア (Julius Payer) である。世界戦當時、一九一六年四月に伊太利のアルプス兵 (Alpini) が奥地利國の兵士から氷河の最頂地點を奪取し伊太利軍隊の精華と呼ばれた。

アダムス・ブリッジ (Adam's Bridge)。マドラス (Madras) の南海岸沖にあるラメスワラム島 (Rameswaram Island) とセイロン (Ceylon) 島の西北海岸沖にあるマナール島 (Manar) との間に西北から東南に走つて連る岩礁砂洲の連鎖

である。連鎖は一七哩の長さを有し満潮時に於ては水面下數呎に没する。三水道あり水路迂曲して航行困難であるが、近年浚渫せられマナーハ灣(The Gulf of Manar)及びボーク海峡(Palk Strait)から通航をなし得るに至つた。

アダムスピーク(Adam's Peak)。セイロン島の山。高さ七、三三五呎。花崗岩に人間の足跡があり、足の長さ五呎、幅二呎半。アラビア人の傳説によればアダムが罪亡ぼしの爲めに片足にて岩上に立つたので足跡が今日まで残存してゐるのだと云ふ。印度人は佛足跡なりと信じ靈地巡拜の一つとなつてゐる。コロンボ(Colombo)の東四四哩。

アダーナ(Adana)。土其古の都會。アダーナ縣(Adana Vilayet)の首府。セイハン・イルマク(Selhun Irmak)河畔にあり、バグダド鐵道(Bagdad Rly.)によつて四二哩。マーシナ(Mersina)港の東北に位しシリシアン・ゲーツ(Cilician Gates)の近くにある。河橋は羅馬皇帝シア

スチニアン(Justinian)(四八三—五六五年)によつて架せられ其後修築せられた。人口七萬二千六百餘。

アッタ(Adda)。英領ゴールド・コースト・コロニ(British Gold Coast Colony)の都會であつて河港である。ウルダ(Volta)河畔にあり、河口より六哩ばかり上流にある。アクラ(Accra)から東北東六二哩。人口一萬二千。

アチングトン(Addington)。倫敦南郊クロイドン(Croydon)の一地區。アチングトン・パリス(Addington Palace)と稱する館邸があり、永くカンタベリー(Canterbury)寺院の代々の大僧正の住居となつて居た。建物は恐らく莊園の館(Manor house)跡に建てられたものらしいが一七七二年の建築に係る。一八〇八年に大僧正の爲めに敷地が購入され、代々の大僧正は一九〇二年までここに住み其年に賣却され、建物は建築家ノルマン・ショー(Norman Shaw)によつて改築され、附屬地一、二〇〇エーカーの反別は住

宅建築の爲めに賣却された。一九二八年には邸宅はクラブとなりゴルフ場が設備された。

アチス・アババ (Addis Ababa)° アビシニア (Abyssinia) の首府。シオア (Shoa) 地方の山中にあり海拔八千呎以上の高き處にあり、ハラル (Harar) より西南二五哩にある。王宮の周圍に散在する村落及び郊外より成り繞らすに城壁を以てし、家屋は何れも小にして低い。鐵道によつて佛領ソマリランド (Somaliland) のジブチ (Jibuti) と連絡す。一八八五年に建設され一八九二年メネレク (Menelek) 二世によつて首府とせられ重要な貿易中心地である。電信電話の施設があり、一八九六年十月二十六日協定された伊太利との條約はこの地に於て結定された。人口六萬五千。

アヂスコム (Addiscombe)° 倫敦南郊クロイドン (Croydon) の郊外住宅地。サザン鐵道 (Southern Ry.) の停車場がある。一八一二—一六一年に東印度會社 (East India Company) は此地に

學校を設け印度軍隊 (Indian army) の特科教育をなした。

アツルスタン (Addlestone)° 英蘭サリ (Surrey) にある都會。倫敦より二一哩。サザン鐵道 (Southern Ry.) の停車場があり主として倫敦人の住宅地となつてゐる。

アドレイド (Adelaide)° 南濠洲 (South Australia) の首府。セイント・ヴィンセント灣 (St. Vincent Gulf) の近くにあり、鐵道によつてアドレイド港 (Port Adelaide) より七哩。濠洲の鐵道系統の主要中心地である。平野に建設された都會にして東方及び南方にはロフチ山脈 (Mount Lofty range) があり、市街から四哩乃至八哩の處より隆起してゐる。トレンス (Torrens) 河は市街を貫き四つの鐵橋がありダムによつて水を堰かれ長き湖水となつてゐる。街路は廣く規則正しく通じ多くの宏莊なる建物がある。政廳・議會・市公會堂・南濠研究所 (South Australian Institute)・祝典記念博覽會場 (Victoria女皇

即位五十年記念祭に當る一八八七年建築・病院等がある。アングリカン(Anglican)教派及び羅馬カトリック(Roman Catholic)教派の僧正管轄區であり、アングリカン派の寺院には 세인트・ピータ(St. Peter)寺があり、羅馬教には 세인트・ザヴィア(S. Francis Xavier)寺があり共に伽藍である。主なる教育施設としては一八七四年に創設された大學があり、セイント・バーナバス・コレッジ(St. Barnabas College)及びセイント・ピータス・コレッジ(St. Peter's College)がある。其他鑛業及び工業の學校がある。鐵道の大停車場は一九二八年に開始され、植物園(Botanic Gardens)は四〇エーカの地域を有し隣接して植物苑(Botanic Park)・動物園(Zoological Gardens)があり、合して八五エーカの坪數を有する。郊外には廣き遊苑地及び獵場等がある。ロフイチ山脈中にて市街を距る一二哩の處には Marble Hill があり總督の夏期避暑の爲めの別莊がある。

アドレイドにては濠洲の鑛業株式の取引所があり、南濠の貿易中心地である。主要輸出品は小麦・麥粉・羊毛・葡萄酒・銅である。製造品は革製品・鐵器・羊毛製品である。無線電信局がある。一九二一年の戸口調査にては人口二五五、三一八であつたが、一九二九年には三十二萬八千を算するに至つた。

アドレイド(Adelaide)。南アフリカのケープ・プロヴィンス(Cape Province)にある小都會。キング・ウキリアムス・タウン(King William's Town)から九〇哩。人口二千六百。

アデルボーデン(Adelboden)。瑞西の一村落であり、健康保養地。ベルン(Berne)の高地(Oberland)にあり、ベルン州のアデルボーデン谷にある。ツーン(Thun)よりの鐵道によつてフルチゲン(Frutigen)に至り、それよりデリジアンス(diligence)と稱する乗合馬車によつて十哩の處にある。鑛泉湧出し古い教會(一四三三年創立)がある。家屋は凡て木造であり四、〇〇

○ 岬以上の高地にあつて外観美しく眺望亦佳絶。

アデルフイ(Adelphi)。倫敦に於けるストランド(Strand)・リナムズ・エムバンクメント(Thames Embankment)との間に介在する地域に一七六八年ローバト・アダム(Robert Adam)・ゼームス・アダム(James Adam)と云ふ兄弟が家屋建築の目的を以て埋立工事を企てる迄はテムズ河の水に干潮時に於ても猶浸つてゐた前濱であつた。アダム兄弟は一七七一年に議會の允許を得てアデルフイ門(Adelphi Arches)を建て地上げをなし、アデルフイ・テラス(Adelphi Terrace)を造つた。アデルフイは希臘語アデルフォイ(Adelphoi)より命名し兄弟の意である。町名は四人の兄弟の名ゼームス(James) ウェリアム(William) ジョン(John) 及ローバト(Robert)を取つて夫々附名した。倫敦ストランドにあるアデルフイ劇場(The Adelphi Theatre, in the Strand, London) はジョン・スコット(John Scott)によ

つて一八〇六年に建てられた。一八一九年までサン・パレル(Sans Pareil)と呼ばれてゐた。一八五八年に再建され一九〇一年に再び改築された。

アーデン(Aden)。又はエーデン。紅海(Red Sea)の入口にある都會及び地方。アーデンと稱する火山半島にありて長五哩幅三哩、バブ・エル・マンデブ(Bab-el-Mandeb)海峡の東一〇五哩の處にある。重要な石炭供給所であり印度に往復する定期船にとつて寄港地である。スエズ運河の建設によつて新しき意義を生じて主要港となつた。アーデンと稱する殖民地及びアーデン保護領(Aden Protectorate)の首府である。海底電信及び無線電信局のある處であり二つの碇舶所があるが、内側の碇舶所だけが商業的に價值がある。アーデンと本土とを連結する海峡には製鹽工場がある。

アーデン保護領は面積九、〇〇〇平方哩。西北はアラビアのイエーメン(Yemen)に接し、西

はインドラマウト(Hadhranaut)に至る。境界は一九〇五年アングロ・オットマン委員(Anglo-Ottoman Commission)によつて定められ、灣に面するツルバ(Turba)からバナ(Bana)河に至りそれより東北に走つて大砂漠(Great Desert)に達する。アラビアの海岸沖にあるペリム(Perim)島、クリア・ムリア(Kuria-Muria)島及びアフリカの海岸沖にあるソコトラ(Socotra)島はアーデン國の屬島である。

アラビア・フェリックス(Arabia Felix)の一部分としてアーデンは羅馬時代に於て非常に重要であつた。一五一三年には葡萄牙人が之を攻撃したが失敗に了り、一五三八年には土其古に隸屬するに至つてソリマン大王(Solyman The Magnificent)によつて要塞を築かれた。一七三五年にラヘイのサルタン(Sultan of Lahej)によつて奪取され、爾來一八三九年に至るまで屢紛争の對照物となつてゐた。英國の船舶に對して多くの暴擧を企てられたが爲めに遂に一八三

九年英國に合併さるるやうになつた。世界戰當時この保護領内に於て戰争あり一九一五年七月より休戰協約に至るまで土其古人はラヘイを保有着してゐた。

一九二八年英政府とサナー(Sanaa)の支配階級イマン(iman)との不和が擡頭し、イマンが保護領の一部分を幾年かの間保持し英國よりの協定の提議を拒絶した。その結果イマンの軍隊が放逐されアーデンは改組された。英政府はこの地の軍事統帥權を航空省の所管に移し、政治的統治權を拓殖省に移して統轄せしめた。印度政府は内治の事項のみ管轄することになつた。

アーデン灣はアラビア海の入江であり、アフリカの東岸のソマリランドとアラビアとの間に介在し長さ五〇〇哩、幅の最廣き處に於て二〇〇哩許りである。英人のアーデンに對する政治的歴史は研究に値するものがある。

アチゼ(Adigeo)。伊太利の河。古代にアセシス(Athesis)と稱し、獨乙にてはエツチ(Eltsch)

と云はれた河である。長さ二四〇哩許り。レン・アン・アルプス(Rhaetian Alps)にあるチロールに起りトレント(Trent)及びヴェローナ(Verona)を過ぎて流れキオチア(Chioggia)の南アドリアチック(Adriatic)海に注ぎ、河流氾濫し易くトレントまで辛うじて遡行し得るに過ぎない。下流に於て運河を作りポー(Po)河と連結す。世界戦當時流域地方 Trentino に於て奥伊の戦闘が屢行はれた。

アチロンダック山脈(Adirondack Mountains)。
北米合衆國ニュー・ヨーク(New York)州の東北にある山脈。ハドソン(Hudson)河の水源地はこの山脈中の諸溪流に起り山間の風景佳く多くの小湖ありて釣漁に最適す。松・樺・楓等の廣き森林帯があり、國立保護林となつて居る。約四、〇〇〇平方哩。山間部、殊にキーン谷(Keene Valley)は狩獵地となり漫遊地となつてゐる。滋鐵礦を多く含有する地層があり、最高峰をマーン(Marcy)山又はタハワス(Tahawus)山と云

ひ、五、三四六呎の高きである。

アジャリア(Adjaria)。
コーカサス(Caucasus)山脈中にある小共和國であつて、デオルデア(Georgia)と云ふ大共和國の一部分をなす。主府はベータム(Batum)。

アドミラルチ群島(Admiralty Islands)。
ニュー・ギニー(New Guinea)の北にある太平洋上の群島。國際聯盟によつて濠洲の委任統治となつてゐる。ビスマルク群島(Bismarck Archipelago)の一部であつて全面積約六〇〇平方哩。そのうち最大なる島メーナス(Manus)は長さ約五五哩であつて山地にして且つ豊沃である。土人はバプア(Papua)種にして食人種である。コア樹繁茂し眞珠業盛に行はる。一六一六年和蘭人によつて發見され、一八八五年獨乙領となり、一九一四年九月濠洲軍隊によつて占據された。